

⑤ 李進熙 著

『韓国の古都に行く』

(学生社)

昨年のサッカーW杯をきっかけに、隣国韓国への興味が高まっています。

本書では、百済の都・公州・扶余、新羅千年の都・慶州、外交の窓口・釜山、李朝五百年の都・ソウルの四力所の古都を歩き、日本との関わりを中心に、歴史をひもといていきます。今まで負の側面の方が注目されてきましたが、視点を変え、古代から交流が盛んで、文化、地形、地名、伝説などに多くの共通点を持つ隣国との歴史に理解を深めてみてはいかがでしょうか。

292.1-Rij (I.W.)

⑦ ジョン・ブルックス 著

神谷武夫 訳

『楽園のデザイン：イスラムの庭園文化』

(鹿島出版会)

中東の照りつける太陽、乾いた大地。はるか昔、そんな厳しい自然と隔絶すべく、塀や壁で周りを囲いこんだ特殊な空間が作り出されました。そこでは清水があふれ、生い茂る樹木が涼しげな陰を落とし、美しい花が咲き乱れていました。英語のパラダイスの語源である古代ペルシア語パイリダエーザ pairidaēza 「囲われた庭園」がイスラムに受け継がれ、ヘネラリーフェのような見事な庭園の誕生に至ります。

629.22-Bro (N.T.)



⑥ 天児慧 編著

『アジアの21世紀～歴史的転換の位相』

(紀伊國屋書店)

奇跡の経済発展から通貨危機、民族問題、深刻化する環境問題等、大きく揺れるアジアは経済発展の中心的役割を担う中間層の台頭、多様なアジア的アイデンティティの興隆によって新たな胎動を見せています。

本書はアジア太平洋地域の経済協力のあり方や、冷戦後の安全保障と新秩序の形成について考察し、21世紀に向けたアジア理解のよき指針となるでしょう。

302.2-Ama (T.K.)

⑧ 石橋純 著

『熱帯の祭りと宴』

(つげ書房新社)

皆さんもよくご存じのリズム、マンボ、ルンバ、サルサ、レゲエ。これら全部がカリブ海域から生まれているのです。

本書では、著者がサラリーマン時代に赴任先のカリブ海域で、職場や家庭での宴席、地域の祭りに魅せられて、更なる祭りを求めて旅した記録が綴られています。

祭りと音楽が一体になっている醍醐味を感じることができる一冊です。

762.59-Ish (N.K.)